

設立経過説明.....

北海道札幌市 松 井 繁

私は昭和30年頃から白鳥の写真とっておりましたので、この2、3年は北海道を終りまして本州の各地をまわっております。

それで各地の白鳥の保護調査にたずさわっていただける方々をよく存じ上げておりますものですから、こういう役目をお引受けすることになったのです。と申しますのは昔は男は6分の狭気4分の熱と申しましたけれど白鳥に対する色気は6分でございます。

それでこういうことになったので、いろいろとよろしくお願い申し上げます。

この会を私が考えたと申しますより発端になりましたのは、私が石川県の二木さんを一昨年2月におうかがいしました時、たいへん苦勞されていて、禁猟区の設定、保護する会を作るのにどうにもならない。苦勞しているけれど、猟友会や農業団体の反対が多くてどうにもならない。こういう苦勞している方が他にもたくさん日本中にいられるに違いない。そういう方とお話して私の苦勞を聞いて欲しい。

それから鳥獣保護禁猟区の設定拡大に成功された方もいられるだろうが、そういう方の成功談を聞いたらずいぶん参考になるだろうと。こういうことを日本中の白鳥保護者が集って話が出来たらどんなに幸せだろうか。そういうご発言があってそれには「先生は日本中をあちこち廻っていらっしゃるのですからどうかお話してみてください」と言われたので、ほんとうは、しづしづお引き受けた次第ですが、やりだしたら白鳥に対する6分の色気で　そういうわけでここまで来た次第でございます。

それでその後、この話をあちこち廻って申し上げておりましたが　昨年暮から今年の元旦にかけて、新潟の本田さんのご案内で新潟県の佐潟、

瓢湖、福島潟を見にまいりました。このとき、本田さんの申しますのには、

『一昨年暮(71年)に、イギリスのスリムブリッジで開かれた国際白鳥会議に吉川繁男氏と一しょに参加したが、「北欧、イギリス、アメリカ」などと比べて、日本の白鳥の研究はたいへん劣っている。むこうがプロならこっちはアマチュア位しかない。何とか国際白鳥会議を日本でも開きたいが、このままの情勢ではどうにもならない。山階鳥類研究所や日本野鳥の会など、いろいろな機関もございませけれども、まだそこまでいく気運になっていないようだから、そういう糸口をつけるためにも、日本白鳥会議のようなものを作らなければいけないのではないか。』そういうお話でございまして、それには私も同感して何とかと、そこで余計に熱が、4分の熱が加わりまして、この1月以来いろいろと皆様にお電話したり、お手紙差上げたりしまして想を練っております。

5月になりまして、お手許にご案内を申し上げたような白鳥の会の発足の総会が、出来るというようなことになりました。今日は一番南は四国の高松からも、島根県の中海、宍道湖の方々もお出でになりましたし、一番北は稚内の近くの浜頓別という所からも皆さんお見えになりました。それで私が今まことに申し訳ないと思っておりますのは、何分この会は出来上ったばかりで微力で何も差上げることが出来ない。ほんとうに皆さん、白鳥に対する十分の熱情をお持ちになりまして、手辨当でお出でいただいて旅費もご自分負たんと、まことに申しわけない様な状態でございますが、白鳥に対する十分の熱を十分にこの会で発揮していただいたら、私共発起人として幸いだと存じます。

本日はどうぞ一日よろしく願いいいたします。